



益田の医療を守る市民の会役員会を開催しました！



「益田の医療を守る市民の会」は、益田市の地域医療を守り、住民が健康で安心して暮らせるように設立され、毎月役員会を開催しています。

毎年6月に総会を開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため、総会中止し書面決議になりました。6月15日(月)の第3回役員会では、全ての議案について過半数の賛成をもって可決されたことを確認しました。

いつも、ありがとう。



役員会では、新型コロナウイルス感染症対策で負担が増えている医療従事者のために、市民の会として何が出来るかを話し合いました。協議の結果、感謝のメッセージを集めて市民の会のFacebookに掲載することとなりました。

市民の会はこれからも益田市の地域医療を守るため、何が必要かを考え、取り組んでいきます。

『まめネットカード』をご存知ですか？

○『まめネットカード』とは…

『まめネットカード』をお持ちの県民の皆さんのカルテ情報を、県内のさまざまな医療機関で共有するネットワークです。カルテ情報を共有することで、検査や投薬の重複を避け、精神的・身体的な負担を軽減することができます。また、意識不明で救急搬送された場合でも、搬送先の病院で情報を確認することができるので迅速に適切な処置を受けることができます。

○このような方におすすめです

- ・複数の医療機関にかかっている方
- ・持病、アレルギーを持っている方
- ・小さなお子さん、高齢の方
- ・複数の薬の処方を受けている方

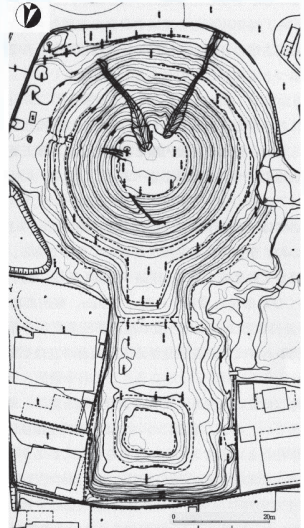
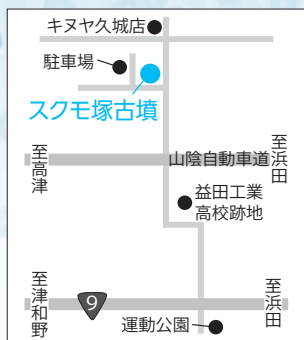


○問い合わせ先 NPO 法人しまね医療情報ネットワーク協会 ☎ (0853) 22-8058

益田市の文化財の紹介

第11回 スクモ塚古墳

【問い合わせ先】 市文化財課 ☎ 31-0623



広報ますだ7月号で紹介した大元古墳と比較すると、造り方が山からの削り出しではないことや、埴輪を並べた場所が多いことから、スクモ塚古墳の方が多大な労働力をかけて造られたことが明らかとなりました。加えて、出土した埴輪の特徴が大元古墳の埴輪と見分けがつかないほどよく似ていることも分かりました。

市では、平成28年度から墳形や造られた時期などを正確に把握するための発掘調査を継続的に行なっています。これまでのところ、ほとんどが盛土によって造られていること、円丘部第1段テラスと方丘頂部に円筒埴輪や朝顔形埴輪が並べられていることなどが分かりました。

スクモ塚古墳は、久城町の標高約30mの台地に位置しています。直径約50mの円墳として昭和16年に国の史跡に指定されていますが、近年の測量調査から全長100mほどの前方後円墳の可能性が指摘されています。

名称	スクモ塚古墳
読み	すくもづかこふん
指定	国指定文化財
種別	史跡
員数	1所
所在地	益田市久城町
年代	古墳時代中期初頭 (西暦400年代初頭)
指定期月日	昭和16年12月13日

ヤマト政権（畿内地域に所在）の大王の古墳は、古墳時代前期から中期に移ると山手から平野に築かれるようになり、盛土量も増加します。この傾向と埴輪の特徴から、スクモ塚古墳の年代は古墳時代中期初頭と考えられます。

以上から、スクモ塚古墳の被葬者は、ヤマト政権などの繋がりの中で、古墳造成方法の技術更新を行なったのではないかと推察されます。そして、地元の埴輪製作集団を大元古墳の被葬者から引き継いだ可能性が指摘できます。

なお、今年度の発掘調査は、秋頃を予定しています。